

## 吉野熊野国立公園大台ヶ原の沿革

### （１）吉野熊野国立公園指定の経緯

吉野熊野国立公園は、三重、奈良、和歌山の三県にまたがる国立公園である。当公園は、山岳、河川、海岸域からなる変化に富んだ公園で、近畿の屋根とも称される大峰山脈とその東側に位置する大台ヶ原、大杉谷、また、これらの山岳を源とし、激しく浸食しながら熊野灘に注ぐ熊野川、北山川の中・下流域、三重県の尾鷲から和歌山県の潮岬、千里の浜にかけての海岸域、及び吉野山や熊野三山等から構成されている。

大正 12（1923）年、大台ヶ原は、内務省衛生局長が公表した国立公園候補地 16 ケ所のひとつとして選定された。当初、候補地段階では、大台ヶ原を中心とした範囲であったが、その後、大峰や熊野なども含めた範囲が候補地となった。昭和 11（1936）年 2 月 1 日、大台ヶ原を含む吉野熊野国立公園が、十和田、富士箱根、大山とともに我が国で 9 番目の国立公園として指定された。

### （２）国立公園制度の概要

#### １）概要

国立公園は、自然公園法に基づき環境大臣が指定し、全国で 34 か所が指定されている。

自然公園法とは、「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること」を目的とした法律で（自然公園法第 1 条）、国立公園とは、「我が国の風景を代表するに足りる傑出した自然の風景地」と定義されている（自然公園法第 2 条）。

昭和 6（1931）年に国立公園法が制定され、昭和 9（1934）年に我が国最初の国立公園が指定された。昭和 32（1957）年には、国立公園法を全面的に改正し、自然公園法が制定された。なお、自然公園には、国立公園の他、国定公園と都道府県立自然公園が含まれ、それぞれ「国立公園に準ずる優れた自然の風景地」、「優れた自然の風景地」と定義されている（自然公園法第 2 条）。

#### ２）公園計画

国立公園の保護と利用を適正に行うために、公園ごとに公園計画が定められている。公園計画は「規制計画」と「事業計画」に大別され、この計画に基づいて、国立公園内の施設の配置や整備、規制の水準や種類を定めている。

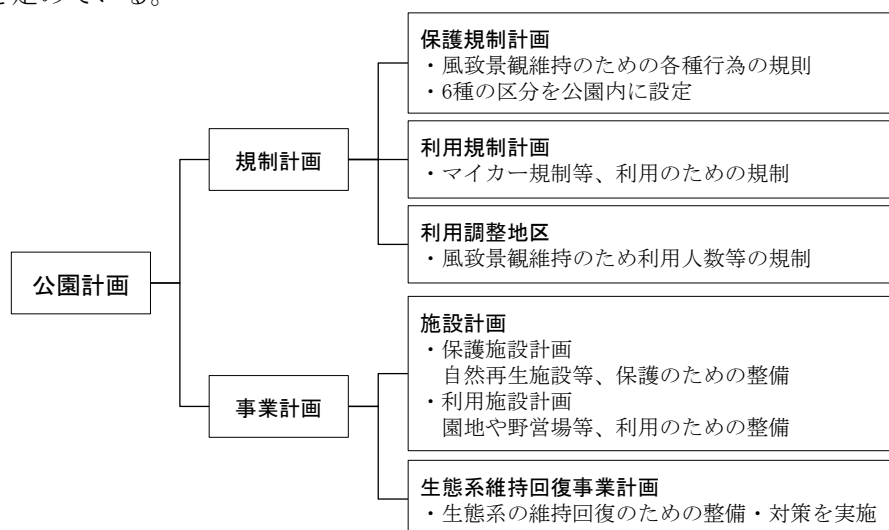


図 9 公園計画の仕組み